

第4章

環境保全に向けての参加の推進

第4章 環境保全に向けての参加の推進

第1節 環境保全思想の普及・啓発

1 環境教育

【義務教育課・高校教育課】

(1) 環境教育のねらい

学校においては、環境教育を、生涯学習の基礎を培う機会として位置づけ、児童生徒の環境問題への関心を高めるとともに、人間と環境のかかわり方や環境に対する人間の責任・役割について理解させ、環境の保全やよりよい環境の創造に向けて主体的に行動できる能力や態度を育成することが大切です。

そのためには、以下のことが求められます。

- ① 教育課程への適切な位置づけと、年間指導計画に基づいた指導
- ② 全教職員の共通理解の促進と推進体制の確立
- ③ 地域の人材や自然、素材（ひと・もの・こと）等を生かした学習活動の工夫

(2) 「環境教育講座」の実施

教育センターの研修講座で、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、講義や実習等をとおして、環境教育について認識を深めるとともに、指導力の向上を図る目的で実施。

○平成19年度「環境教育講座」－体験型環境教育の場をデザインするために－

ア：目的…環境教育で重要視される、参加体験型プログラムの実践について事例体験し、体験学習法の考え方やノウハウを理解することで、各学校において体験型環境教育の場をデザインし実施できるようになる。

イ：期間…1日間

ウ：会場…出雲科学館

エ：受講人数…40名（小：27名、中：3名、高：9名、特：1名）

オ：研修内容

- 事例体験 参加体験型プログラムの実際とその考え方～体験編～
- 講義 参加体験型プログラムの実際とその考え方～理論編～

カ：講師…ライフデザイン研究所FLAP
代表 岩木啓子

(3) 「学校版エコライフチャレンジしまね」の推進

- ・環境に負荷の少ない学校運営を目指して、平成18年度から県内全ての公立・私立・附属学校を対象にして開始しました。
- ・各学校での消費エネルギーを入力すると、自動的にグラフ化して表示したり、二酸化炭素の削減量を表示したりできる。また、各学校の取組計画や、活動レポートを掲載し、県民に広く公開することで、情報の発信や共有化も可能です。
- ・平成22年度での100%登録を目指しています。平成20年3月31日現在、103校の登録（県内の全ての小・中・高等学校・特別支援学校の約24%。平成20年度の目標は70%）がありました。
- ・「学校版エコライフチャレンジしまね」のURLアドレス及びトップページ

アドレス

<http://www.ecoschool.jp/scl/>

トップページ



(4) 環境教育の実践例

① 小・中学校の取組－平成19年度全国環境学習フェア資料に掲載した実践校－

○益田市立戸田小学校

・学校全体での取組

全校児童で、学校近くの海岸の汚れを調べると共に、海岸清掃を行っている。

・学級での取組

総合的な学習の時間において、地球温暖化現象の地球に与える深刻さを考え、省エネ対策等がどのように進められているかを調べ、自分たちができることは何かを考えながら環境学習を進めている。

○安来市立第一中学校

昨年度から、特別支援学級（知的障害）の総合的な学習の時間を活用して、島根県環境生活部環境政策課が主催した「みんなで調べる中海流入河川調査」に参加

した。1年間学校近くを流れる伯太川の水質調査（透視度、COD値など）や、市内の他の3つの川との比較を行い、伯太川の自然環境についてまとめた。その成果を校内文化祭と安来市特別支援学級合同作品展において、紙上発表を行った。

平成19年度は、伯太川に加え、近くにある吉田川についても同様の水質検査を行い、身近な河川について関心を高めようと努めた。

② 高等学校の取組

○授業を通じた環境教育：島根県立松江農林高等学校

・環境土木科の課題研究において、専門教科の学習で習得した土木や造園の技術を活用して、校内の環境整備を行っている。その中で、学校周辺の山林に放置されている間伐材を材料とした課題に取り組んでいる。森林組合の協力を得て、材料の切り出し・運搬から行

4-1 環境保全思想の普及・啓発

い、木柵による排水路の整備や学校前のバス停の待合所の作製などに利用している。

- ・本年度も引き続き、排水路の整備と広場に東屋の建設を計画し、施工中である。特に排水路についてはビオトープとしての整備をあわせて検討中である。

【各種受賞校等】

○宍道湖流入河川水質調査

- ・環境大臣賞
雲南市立西日登小学校、斐川町立斐川西中学校
- ・島根県知事賞
奥出雲町立亀高小学校、雲南市立掛合小学校
- ・国土交通省中国地方整備局長賞
出雲市立平田小学校、奥出雲町立高田小学校
- ・宍道湖水質汚濁防止対策協議会会長賞
斐川町立出東小学校、斐川町立荘原小学校

○中海流入河川水質調査

- ・島根県知事賞
安来市立十神小学校
- ・島根県教育委員会教育長賞
安来市立比田小学校
- ・奨励賞
安来市立南小学校、安来市立第一中学校

○コカ・コーラ環境教育賞

- ・主催者賞
出雲市立神西小学校、出雲市立鱒淵小学校、奥出雲町立馬木小学校、吉賀町立七日市小学校

○環境美化教育優良校表彰

- ・散乱防止部門
松江市立玉湯中学校
- ・リサイクル部門
吉賀町立柿木中学校

○緑の少年団発表大会

- ・最優秀賞
雲南市立吉田小学校

- ・優秀賞
出雲市立上津小学校
- ・緑の奨励賞
奥出雲町立高尾小学校
- 愛鳥モデル校
安来市立南小学校、奥出雲町立高尾小学校、斐川町立出東小学校、益田市立桂平小学校、益田市立西益田小学校

2 こどもエコクラブ事業
【環境政策課】

こどもエコクラブ事業は、次世代を担う子どもたちが、地域の中で仲間と一緒に主体的に地域環境、地球環境に関する学習や具体的な環境保全活動を展開できるように支援することを目的として、環境庁の委託を受けた(財)日本環境協会が実施しています。

平成19年度は、県内で60のこどもエコクラブが結成され、川の水質調査、生物調査など様々な活動を行っている。県は活動推進のため、各クラブ間の交流会を7月及び2月に開催しました。

表4-1-1 こどもエコクラブの登録状況

	登録クラブ	メンバー／サポーター (人)
平成7年度	37	84／－
平成8年度	56	811／－
平成9年度	44	621／－
平成10年度	54	735／106
平成11年度	54	609／145
平成12年度	41	643／147
平成13年度	36	745／151
平成14年度	38	1,165／211
平成15年度	56	1,168／198
平成16年度	46	1,029／250
平成17年度	38	691／202
平成18年度	34	809／208
平成19年度	60	4,406／583
累 計	504	13,516／2,201

第2節 各主体の環境保全活動の推進

1 普及啓発事業

(1) 環境月間行事

平成6年度から環境月間を6月に改め、6月5日の環境の日を中心として、各種の事業を実施しています。

① 環境保全功労者の表彰

環境保全に関し、特に顕著な功績のあったものに対して知事感謝状を贈呈しました。

② 「クリーンしまね—環境美化行動の日」

実践活動を通じて環境美化意識や資源を大切にす意識の普及啓発を図るため、環境美化行動の日を設定し、広く一般参加を得て清掃活動、空き缶の分別収集とリサイクル等を行いました。

期日：6月3日(日)

提唱：島根県

内容：市町村、各種団体等により公園、緑地、河川等の清掃や空き缶の分別収集

(2) 環境保全普及啓発の広報

今日の多様化した環境問題を解決していくためには、県民、事業者及び各種団体等の自主的かつ積極的な活動が不可欠となっています。

そこで、すべての県民が環境に配慮した行動がとれるように、県の環境施策や各種月間等の環境情報について、最も効果的な伝達媒体であるマスメディアを活用し広報・啓発を図っています。

・新聞広報 8件

環境月間、3R推進月間、地球温暖化防止月間、省エネ月間等

・テレビスポットCM

3R推進月間、エコドライブ推進月間、地球温暖化防止月間、省エネ月間

2 研修会の開催【環境政策課】

市町村及び保健所等の、環境行政を担当する職員を対象に、環境行政の現状及び実務の知見や理解度を深めることを目的として、「市町村及び保健所環境・廃棄物担当者研修」を実施しています。

平成19年度は、光化学オキシダントや環境に関する事務等の市町村への権限移譲に関する研修を実施しました。

3 環境白書の発行

本県の環境の状況や環境の保全に関する施策の実施状況等を取りまとめ、「環境白書」として作成し、各市町村、公立図書館、中学校・高等学校や関係機関等へ配布するとともに県のホームページに掲載し、県民や事業者への公表に努めました。

4 環境マネジメントシステムの普及・啓発

「企業が環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて自主的に取り組むこと」といった内容を指す「環境管理」について、国際的な統一規格としてISO14000シリーズ環境管理システムに関する一部が平成8年9月に規格化されました。

環境マネジメントシステムは、簡易版も含めて今日の環境問題解決への有効な手法であるので、事業者の認証取得への情報提供を図っています。

第3節 参加と連携による地域環境づくりの促進

[助島根ふれあい環境財団21実施事業]
平成19年度主要事業実績(環境保全活動支援事業分)

団体コースと法人コースに分けて助成しました。

1 交流・連携事業

(1) ネットワークの形成

県西部に新たに拠点を設け、各地域のネットワークづくりを推進しました。

(2) 環境学習への支援

省エネルギーの実践活動の普及・啓発の一環として、家庭の室内温度が測定できる温度計シールや環境教育教材の作成・配布・貸出しを行いました。

2 情報収集・提供事業

(1) 環境情報収集・整理・提供

環境関連情報を収集・整理し、県民に分かりやすく提供しました。

- ① 新聞・雑誌・図書類の購読・購入
新聞記事の収集整理、関係図書・雑誌の新規購入を行いました。
- ② ホームページでの情報提供
各種情報案内を提供する情報ボックスや各事業に関連するサイトで情報を提供しました。
- ③ 環境に関する資材を購入し配付しました。

(2) ライブラリーの整備

環境関係及びボランティア・NPO関係図書、ビデオ等を購入し貸し出しを行いました。

(3) 機関誌の発行

機関誌・ふれあい環境ニュース「びいびいと」の発行
第23号、第24号を発行。
配付部数：(固定) 約6千部。
※財団ホームページにも掲載。

4 人材育成事業

(1) 講師・指導員派遣事業

県民や事業者が実施する研修会等に環境アドバイザーを派遣しました。
平成19年度派遣件数 19件

5 普及・啓発事業

(1) 環境フェアの開催

「しまねエコライフ・フェスティバル」の開催
地球温暖化や循環型社会の形成など、県民一人ひとりが理解し行動することが必要であるため、より多くの方に楽しみながら実践できる普及・啓発の機会として開催しました。

- ・日 時 平成19年10月14日
- ・場 所 益田市(グラントワ)
- ・実施方法 しまねエコライフ・フェスティバル実行委員会を組織し実施
- ・テ ー マ 地球温暖化防止と循環型社会をめざして
- ・参 加 者 約3,500人
- ・概 要 環境関係の17団体や企業5社の出展。子どもから大人まで楽しく学べる内容とし、体験を主体とした内容で実施しました。

3 活動支援・助成事業

(1) 環境保全活動支援助成事業

助成件数 86件
助成額 13,390千円
助成制度の一部改正を行い、ボランティア・

(2) しまね環境大賞の表彰

その年において他の模範となるような環境保全活動や環境技術開発に取り組んでいる個

第4章 環境保全に向けての参加の推進

人、団体、事業者に対し、その活動を賞し、奨励するもので、19年度が8回目です。

この賞は、環境保全活動部門（個人・団体）と調査研究・技術開発部門（事業者）の2部門があり、今回は合計7点の応募がありました。

た。

1月22日に行われた選考委員会でそれぞれ次のとおり大賞と奨励賞が選ばれ、表彰しました。

○大賞

部 門	受 賞 者 名	活 動 名	活 動 内 容 と 評 価
環境保全活動	該当なし		
調査研究・技術開発	(有)イトーヨーコーサービス	自動車修理・钣金業向け「移動式粉塵集塵機」の開発	自動車钣金塗装業界で塗装剥離・研磨作業を行う際に発生する有害物質の粉塵が人体や環境に及ぼす悪影響を改善するため、粉塵の拡散を防止し効率的な集塵を可能とする移動式粉塵集塵機を開発しました。今後さまざまな業種業態においても活用が期待されます。

○奨励賞

部 門	受 賞 者 名 ・ 活 動 名
環境保全活動	・環境倶楽部「しまえっこ」アダプトプログラム
環境保全活動	・アースサポート(株)「環境教育」
調査研究・技術開発	該当なし

(3) 花いっぱい緑いっぱい運動の推進

島根県内各地の街、道路、公園、職場、学校では、同じ地域の人たちや、働く人たち又は生徒と先生がそれぞれ協力して花や緑を育てることにより、美しい環境づくりや思いやりとふれあいのある地域づくり、人づくり活動が継続して行われています。こうした個人、団体の活動を一層拡大、発展させ、全県的な運動に展開するため、『花と緑』を通したうるおいとふれあいのある地域づくり活動を表彰しました。

① 第18回島根県花と緑のまちづくり賞の表彰等

○応募件数 花の部 35件（地域職場・18、学校・11、個人・6）

市町村審査を経て推薦された「花の部」15件について審査会を行い、各賞を決定しました。

○【花の部】「まちづくり大賞」を志学ふるさと21推進協議会が受賞した外、〔地域・職場の部〕で3団体、〔学校の部〕で7団体、〔個人〕で4人が最優秀賞等を受賞しました。

② 花と緑の講習会の開催

花づくりのレベル向上を図るとともに地域に密着した花づくりを進めるため、実技指導を含めた花づくりの講習を行いました。

・月 日 平成19年11月10日(土)

・場 所 出雲市東福町 東福公民館

・講 師 柿田 義文氏

・参加者 約40名

・月 日 平成20年3月13日(木)

・場 所 雲南市吉田町 吉田郵便局空き地

・講 師 柿田 義文氏（樹木医）

・参加者 約60名

(4) こども環境学習支援事業

- ① 家庭における環境学習（もったいない生活日記）の開催
小学生を対象に8月にもったいない生活日記を募集し、親子で環境へに取り組みを実施してもらいました。
参加者：1,171人 優秀な取り組みに記念品授与。
- ② こどもエコクラブ交流会の開催
こどもエコクラブ交流会（夏、冬）を開催しました。
- ③ 環境学習教材作成
環境教材として環境保全を題材としたDVDを作成し、配布しました。
- ④ リサイクル資機材等の購入
学校版エコライフチャレンジ参加校に対し希望するリサイクル資機材を配付し、学校でのリサイクル意識の高揚を図りました。（10校配布）

6 調査・研究事業

環境に関する調査・研究

今後の環境政策の基礎資料とするため、エコライフチャレンジしまね取組状況に関する調査を実施しました。

7 地球温暖化対策事業(島根県地球温暖化防止活動推進センター事業)

(1) 環境家計簿運動の推進

平成17年度から新たに県の「地球温暖化対策推進計画」が実施されたことに伴い、県民の取り組みとして、地球温暖化防止活動推進員及び市町村との連携により、新システムによる環境家計簿（エコライフチャレンジしまね）の推進を図りました。（平成19年度末延べ参加者数：3,960件）

また、地球温暖化防止への取り組みを推進するため、エコドライブ推進キャンペーンや省エネ生活キャンペーン、ライトダウンキャンペーンなどを実施しました。

(2) 地球温暖化防止活動推進員研修の開催

平成18年に県が委嘱した118名の島根県地球温暖化防止活動推進員に対し、主に実践研修を益田市、出雲市、隠岐の島町、浜田市で実施しました。

また、推進員が独自で企画した地域での研修を支援しました。

(3) 一村一品知恵の環づくり事業

地域で活動している地球温暖化防止の活動を掘り起こし、優秀な取組を紹介していくことにより地球温暖化防止のムーブメントを起こしていくことを目的に、平成19年度から環境省が実施した事業。応募のあった6件よりグランプリ「けやき落ち葉拾い大作戦」(松江)等を選定し、グランプリ団体を県代表として全国大会に推薦し、優秀賞を受けました。

(4) 島根県地球温暖化対策協議会の運営

平成17年に設立した島根県地球温暖化対策協議会の事業として5月に幹事会、6月に推進会議、12月に推進大会を実施しました。また、家庭部会を年2回実施。さらに協議会のホームページを更新し情報提供を行いました。